

まちづくりワークショップ通信 VOL. 2

制作・発行 大淀町役場 総務部企画政策課

第2回大淀病院跡地及び近鉄下市口駅周辺地区 まちづくりワークショップを開催しました!

- 日 時 2016年11月7日(月)
18時00分～20時20分
- 参加者 町民23名+学生15名
大淀町役場職員
株式会社 長大
- 場 所 大淀町役場
2階201・202会議室

平成28年11月7日(月)に第2回 大淀病院跡地及び近鉄下市口駅周辺地区まちづくりワークショップを大淀町役場にて開催いたしました。23名の町民と近畿大学の学生15名にご参加頂きました。

はじめに、大淀町総務部 福西より開会のあいさつを行いました。続いて、事務局より、まちづくり基本構想の流れ、前回のワークショップで得られた地域の課題の確認、第2回ワークショップの流れについての説明が行われ

れました。次に、町民たちの提案の足掛かりとなるよう、近畿大学都市計画研究室の学生によって、まちづくりの事例紹介が行なわれました。そして、近畿大学 脇田教授に前回の振り返りと、今回のワークショップに向けてお話を頂き、第2回ワークショップの開会となりました。

まず各テーブルごとに自己紹介の一環として、やりたいことカードを作成し、それぞれが地域でやりたいことを共有しました。そして、前回のワークショップで発見された町の課題を再度確認したのち、病院跡地、河川利用、駅前、商店街や空き家・空き地など大淀のさまざまな場所に関する具体的な提案を協議して頂きました。

今回も最後に、話し合った結果を各班の町民の代表者が発表し、意見を参加者全体で共有しました。最後に、脇田教授より総括を頂き、第2回 大淀病院跡地及び近鉄下市口駅周辺地区まちづくりワークショップの閉会となりました。

当日の流れ・プログラム

大淀町まちづくり ワークショップの流れ

◆第1回 9月19日◆

まちあるきののち、大淀町の課題と魅力を協議し、これからのまちづくりの方向性を出し合いました。

◆第2回 11月7日◆

前回見つけた課題を確認し自分たちがやりたいことの検討・具体的な提案を協議しました。

◆第3回 12月5日◆

将来像を実現化していくために病院跡地、河川利用、駅前、商店街について住民たちがどのように関わっていくか協議して頂きます。

1 開会



大淀町役場総務部 福西による挨拶、事務局による流れの説明、脇田教授による前回の振り返りと挨拶を頂きました。

2 事例紹介



近畿大学の学生による事例紹介では他地域で成功している事例を見て、提案の足掛かりを得ました。

3 課題確認・提案の検討



前回の課題を確認し、大淀のさまざまな場所について提案を検討しました。

4 具体案の協議



主体(誰がやるか)の検討も含め、具体的な提案を協議しました。

5 発表



班ごとに考え出された3つの具体案を発表という形で全体に共有しました。

6 総括・閉会



脇田教授より総括とまちづくりについてのお話を頂き、第2回ワークショップの閉会となりました。

各グループのまとめ

A 班

林さん、西浦さん、中嶋さん、
亀岡さん、木村さん、日下部さん (TL※1)



※1「TL」とは、各テーブルで司会進行を行った「テーブル・リーダー」を略したものです。
 ※2「ソフト面」とは、人やアイデア・イベント企画といった一定の形が無いものを指します。
 ※3「ハード面」とは、物理的な物を指し、道路・建物・設備などが該当します。

提案と具体案

ソフト面 (※2)

- ・青のシンフォニーでの下乗する際の魅力づくり
- ・川は自然のまま残した方が良い

ハード面 (※3)

- ・若い世代も子供をそばに置き、働く場をつくる
- ・商店街のあとに公園をつくる
- ・高齢者が住み続けられる最低限の施設を整える

主な発表内容

- ・今までの商店街の活性は失敗が多いので、あの場の活性より他に目を向ける
- ・活性化をするにあたってビジターより住民意識よりの案を出す
- ・近鉄が急行を停めてくれている間に駅前の寂しさを何とかしなければ

B 班

浅田さん、金沢さん、小西さん、俵本さん
園山さん、池内さん、伊藤さん (TL)



提案と具体案

ソフト面

- ・駅前に芝桜を植えこみ、電車から見てもらう
- ・とにかく大淀の駅に降りてもらうために明るく

ハード面

- ・景観を活かした川をみながら食べられるレストランを作る
- ・四季折々楽しめる自然公園を整備
- ・シイタケ狩りと名物鍋のキャンプ場を開設する

主な発表内容

- ・駅前を明るく、何か目に見える楽しみとして桜などを植える
- ・観光の目玉となる川で鮎をおいしく食べる施設、キャンプ場の併設
- ・観光地の目玉になる食品について

C 班

林さん、下西さん、中川さん、奥村さん、
大塚さん、福田さん、松本さん (TL)



提案と具体案

ソフト面

- ・病院跡地でフリーマーケットをしてまちのブランドを売る
- ・商店街ロータリーでのイベント（歩行者天国にする等）活用
- ・ネットのSNS活動

ハード面

- ・スパ施設、サロン、教室ができる場所をつくる
- ・休憩スペースを大淀町に作る
- ・駅から病院跡地までの街並みの整備

主な発表内容

- ・吉野川などの地域資源が上手く活用されてない
- ・スーパー銭湯や宿泊施設などの外に向けた取り組みがない
- ・地域主体も大切だが行政からの支援と民間企業の力が必要不可欠

D 班

高橋さん、戌亥さん、藤田さん、竹中さん
田中さん、橋本さん、助迫さん (TL)



提案と具体案

ソフト面

- ・商店街、地域に人が協力してイベントの開催
- ・地域の特産、軽食を販売する
- ・広報で空き店舗募集の呼びかけ
- ・駅前でラジオ体操

ハード面

- ・ベンチなどを設置して小休憩できる場所作り
- ・スーパー銭湯のような場所をつくる
- ・町営で河川敷に駐車場、キャンプ場などの提供

主な発表内容

- ・吉野郡を訪れる観光客の玄関口としての役割を果たしていない
- ・商店街の空き店舗で学生と高齢者が共同で文化祭を開催
- ・河原のBBQ施設の併設、交流の場としてスーパー銭湯で交流を

E 班

植田さん、大蔵さん、岡本さん
森さん、根岸さん、笹谷さん (TL)



提案と具体案

ソフト面

- ・高校生が商店街の空き店舗で職場体験の実施
- ・昭和レトロ市を開催し在庫整理
- ・不動産屋と協力し空き店舗、空家の情報共有

ハード面

- ・高齢者と学生の関係を築く場を
- ・宿泊施設やスーパー銭湯
- ・道路整備による見栄えの向上
- ・近鉄下市口駅西口の設置
- ・駅～駐車場のバリアフリー化

主な発表内容

- ・空き店舗解消の為の情報共有として空き家バンクを行政関与で設立
- ・病院跡に道の駅やスーパー銭湯など観光、商業の施設として提案
- ・行政による下市口駅のハブステーション化

F 班

泉沢さん、杉本さん、岡谷さん、
宮本さん、金井さん、池田さん (TL)



提案と具体案

ソフト面

- ・若い世代に魅力的な施策の実施
- ・大淀町の特産品をアピールしながら街コンの開催
- ・若い世代が中心となり商店街の空き家でイベントを開催して人を集める

ハード面

- ・空いた病院を診療所にし、いつでも寄れるところに
- ・空き家を集まるスペースに
- ・駅前に大きな公園、森林、花園、遊歩道、休憩スペースをつくる

主な発表内容

- ・標識等を建て、川への進入路をつくる
- ・病院跡地に診療所を建て、人の集まる場を作る
- ・駅を地下に入れることで、空いたスペースをイベント広場にする

各班の 具体的な提案

ワークショップの最後に各班ごとに今後のまちづくりについての具体的な提案を3つ考えて頂きました。

A 班

- ① 商店街を住宅地にして必要なものを駅前に集約する
- ② 病院跡地で高齢者が気軽に診察を受けられる施設
- ③ 川はそのまま残して自然を楽しむ

B 班

- ① 駅前を整備し、観光客が来やすい駅へ
- ② 河川の整備を行い、釣り、キャンプできるように
- ③ 宿泊施設を有志で活用

C 班

- ① 使われていない建物（病院跡地など）が雇用の場となるように
- ② SNSを活用し、情報を発信する
- ③ 観光案内所をつくる

D 班

- ① 商店街の空き店舗で学生と高齢者が共同で文化祭開催
- ② 吉野川を活用し、キャンプやバーベキュー施設を
- ③ 宿泊施設と集う場所を兼ねたスーパー銭湯をつくる

E 班

- ① 明るいまちづくりのためのハブステーション
- ② 病院跡地を商業・観光・福祉施設化
- ③ 情報共有による空き店舗活用

F 班

- ① 商店街の空いた店の貸し出し
- ② 病院跡地を健康施設へ
- ③ 駅前にイベントスペースをつくる

参加者の声

第2回ワークショップに参加された方に、アンケートに回答して頂きました。

自分が思っている以上に大淀について考えを持っている人がいてびっくり。

いろいろな意見や具体的な提案が出て良かった。

自治体に頼らないイベントの必要性を感じた。

老後の暮らしについてももっと先の事についても議論したい。

より具体的にする為に、県の意見をもっと出してほしい。

前回より活発な意見が出て良かったが、どこまでが具体的なのか分かりにくかった。

今後の町について考えることができ、楽しかった。

だんだん具体的になって夢が広がってきた！

話し合うメンバーは変わったが内容が同じだったのでは？

参加メンバー全員、大淀町復興の熱意にあふれて居ると感じた。

近畿大学脇田教授による

全体の総括

今回は住民一人一人が街に対して何ができるかを考えることを最終目的にすえながら、行政、企業、自治会、個人など、行動の主体を設定し、それぞれの主体に何ができるのかを考えることを目的としました。単に行政にお願いするのではなく、自分たちでできることは自分たちで行うという姿勢が、これからのまちづくりには重要です。こうした機会を繰り返しもつことで地域主体の自発的なまちづくりにつながることを期待しています。

